

朝鮮通信使唱和集目録稿(二)

高橋昌彦

本稿は、「朝鮮通信使唱和集目録稿(一)」(本誌第六卷八号)に引き続き、寛延度から文化度までの通信使との唱和集を採り上げる。

江戸時代前期に比べ、中期に入ると、唱和集の数は格段に増加してくる。出版文化が進んだこと、そして、多くの人々が通信使との接触を試み、実行したことがその因であったと言える。まれに訪れる異国人の大行列は、現代人が思う以上に、大きなイベントであったに違いない。しかし、その数は、明和度でピークを迎えながらも、文化度は、交流の場が対馬一国にとどまったため激減、そして、その後は途絶えてしまう。江戸時代後期から幕末にかけて、信使来聘計画は、將軍襲職の機会に幾度となくあったが、経済的な理由など両国のさまざまな事情により、実現には至らなかったのである。だが、江戸の人々は次の通信使を心待ちにしていた。例えば、一紙もの六枚続きで出版された『朝鮮人来聘大行列略図』(板元 大坂河内屋清七・京都菊屋七郎兵衛)には、慶長十三年から文化八年までの年次とそれぞれの間隔の年数が掲載されているが、その最後の行は、「来ル年來朝」と墨格のまま、すぐに次の来聘に対応できるようになっているのが見てとれる。歴史に「もしも」は存在しないが、幕末に通信使が来ていたら、明治以降の和韓の関係はもっと違うものになっていたかもしれない。互いを理解する機会が少なかった時代の交流。その証が、この唱和集と云えるのである。

凡例は、基本的に前稿(一)と同じであるが、唱和集以外の通信使に関する出

版物について、各度の末に◆の印を付け、載せている。また、前稿に漏れた書物については、補遺として末尾に付した。

本稿をなすに当たり、閲覧・複写等について各所蔵者・公共機関にたいへんお世話になりました。記して御礼申し上げます。

延享五(寛延元・一七四八)年

○韓館唱和編 刊 大本 二卷一冊 柳川古文書館

見返し「延享五年戊辰夏／韓館唱和編／江都 御書房 松栢堂梓行」

守山問槎録

黄龍先生(源頼寛、字子猛) 2丁半

宇通門(姓宇留野、名震、字大卯、号通門・三朶花、医者) 2丁

付録 3丁

筆語 名越南溪(彰考館編修総裁)

琴臺問槎録 9丁半

琴臺紀恭忠相恕著

六月十日 江戸本願寺

題琴臺問槎 延享戊辰之夏六月十有七日 鳴鳳卿 3丁

刊記 御書物所 江戸日本橋通一丁目 出雲寺和泉掾壽梓

※狩野文庫本の同書には、上欄に紀恭忠の漢詩書き入れが残る。その一つには「寛延初 元戊辰秋九月廿五日」の日付が入る。詩題「奉謝守山侯、合刻子問榎録書、寄越子」贈 李濟庵扇面詩十首 帝州十勝「過湊川憶楠忠公」。

○韓客治験 刊 大本 一冊 京都大学富士川

見返し「浪華 樋口淳叟／韓客治験／寛延二己五月 蔵版」

序 寛延二己己三月 田中牧齋素行甫記 2丁

自藝州鎌刈贈来書翰 浪華医士樋口道與識 4丁

本文 13丁

樋口淳叟(字道與、号生寧、浪華の医)

前半は信使に対する治験(四月二十六日、浪華本願寺)

後半は信使中の医活庵との問答

卷末「樋口道與蔵版」

○韓榎墳篋集 刊 大本 三卷二冊 内閣文庫

見返し「華陽先生著／合刻 韓榎墳篋 東方頌言／千鐘堂梓」

著者 西播 合田憲伯求(姓越智、合田氏、名憲、字伯求、号泰溪、又号華陽

山人)著

本文

卷上 18丁

卷下 27丁

附録 2丁

渡辺北岳(名得正、字何求、高田城医官)の詩文

附刻「東方頌言」

延享五年戊辰夏六月朔 合田徳撰 9丁

刊記 寛延元戊辰八月朔旦 書林 京師堀川通仏光寺下町 河南四郎右衛門・

大阪心齋橋筋安堂寺町 大野木市兵衛・江戸日本橋南一町目 須原屋茂

兵衛開板

○榎餘 刊(マイクロフィルム) 一冊 東北大学狩野文庫

序 年次なし 秋府林重憲／東都蘭山藤世雄書 5丁
榎餘姓名考 1丁
内題「榎餘」

編著者 東都淵好凱編輯・藤堂良道再撰

本文 20丁

延享五年六月十日 浅草客館

宮瀬龍門(文翼)・藤堂巴陵(君籟)・滕雁阜(目夷)・安東海(子昂)・井笠

澤(世翼)

附記・跋 延享戊辰六月十七日 淵好凱識 2丁

寄詩 1丁

跋 寛政六年歳在甲寅夏五月也 藤堂良道子基識 2丁

刊記 東都書肆 文会堂長谷川新兵衛版

※都立中央図書館蔵『延享榎餘』写一冊は、同じ内容。

○仙榎筆譚 刊 大本 一冊 内閣文庫

見返し「太醫令橋先生門人校板／仙榎筆譚／寛延改元戊辰秋 東都書肆 泰山

堂壽梓」

序 寛延改元秋八月 鹿門望三英識 2丁

内題「橋先生仙榎筆譚」

編著者 太医令門人 服部道立・竹内道安・服部元格校刻

本文 29丁 筆談

姓橋、名元勳、字公績、号西岡、丁未叙朝散大夫、任太医令、為尚葉奉

御、丙辰薙髮、称道三。

五月二十三日

附録 4丁 六月七日・九日・十二日

附刻 2丁 唱和

服部玄良、子温父、行年十六。

田生、号省齋、名聖賓。

跋 寛延改元戊辰秋八月既望 弘前侯侍医服部道立 1丁半

刊記 江戸日本橋三町目 竹川藤兵衛板

○善隣風雅 刊 大本 二卷二冊 都立中央図書館

見返し「延享戊辰之夏五／善隣風雅／平安 奎文館梓」

序 延享戊辰夏六月 播磨清絢撰 5丁

通信使一行座目 4丁

内題「善隣風雅第一集」

編著者 小徒周省録

本文

卷一 21丁

翠巖

卷二 20丁半

浪華 櫻良翰・林俊・狭山菅栄・瀬尾維徳、名護屋 千良重・井知亮・

千諸成

後序 延享戊辰夏五 浪華関世美題 2丁

刊記 延享五年戊辰夏六月 平安書坊奎文館 瀬尾源兵衛發行

○善隣風雅後編 刊 大本 二卷二冊 京都大学附属図書館

見返し「韓使唱和筆談尺牘／善隣風雅後編／平安書肆 弘書軒梓行」

叙 寛延改元秋九月 平安芥煥彦章撰 4丁

唱和姓名 1丁

唱和目録 1丁

編著者 小徒周省録

本文

卷上 34丁

承堅（号翠巖、別称芝林、又曰洪崖）

卷下 37丁

内題「善隣風雅附録」

名古屋 千鼎臣・井岐山・関祖洲・村馬六・須賀玉潤・須賀精斉・佐藤

庵・中村南来

水小山唱酬並筆語 水谷小山（桑名の人、今須・大坂で接見）

林三洲（桑名の人、接見できず書を送る）・佐藤華山（桑名藩家臣、接

見できず書を送る）

刊記 寛延元戊辰九月 三條通新町東江入町 文台屋多兵衛

○桑韓鏘鏗録 刊 大本 四卷三冊 内閣文庫

見返し「十三家唱和筆語尺牘医談／桑韓鏘鏗録／平安 書林廣文堂蔵」

序 寛延紀元戊辰閏十月 曾有原／雲庵衣笠親堅書 4丁

寛延元戊辰季秋日 奥軌同直救題／雲庵衣笠親堅恭書 2丁

目次 2丁

本文

卷上 11丁

南溟（度会未済）・霽寰（林世栄）・霞窓（篠融、士明篠先生の弟）・玉川

（股野充美、龍野股野龍溪の令子）

卷中 21丁半

蕙响（本多恭立）・南洲（八住元迪）・東湖（松井長發）・翠栢（北名春倫）

九松軒（西河翼）・幽篁軒（西河颯）

卷下 6丁（但し1丁目と5丁目の本文同じ）

鶴鶴軒（櫻井養仙）・常山（内山祐之）

医談目次 1丁

医談 12丁

刊記 卷末「寛延紀元戊辰冬十一月 皇都書林 圓屋清兵衛櫻行」

跋 寛延戊辰冬至 雲庵賢題 1丁

広告「廣文堂蔵板目録」1丁

○対麗筆語 刊 大本 一冊 内閣文庫・東博

序 延享五年戊辰六月 糟壁関根東里 1丁

著者 江戸 菅道伯夷長(姓菅、名道伯、字夷長、号純陽、三十七歳)著

本文 14丁半

六月三日・五日、於本願寺

刊記 延享五戊辰年六月 書房 江戸日本橋通巷町目 出雲寺和泉掾発行

○長門戊辰問槎 刊 大本 三卷三冊 萩市立図書館

見返し「周南先生序／長門戊辰問槎／浪速 稱觥堂梓」

小引 寛延元年初冬日 長門縣孝孺 2丁

姓名 1丁

草場中山・小田村酈山・山根華陽・山縣棠園・繁澤棠山・山根龍山・山縣

洙川・田中蘆城・小倉鹿門・佐佐木曲江

本文

卷上 21丁半

卷中 24丁半

卷下 9丁半

刊記 寛延元年龍集戊辰八月 書林 東武 通本町三丁目 西村源六・浪速

心齋橋順慶町 洪川清右衛門・同 堀内忠助

○班荆問譚 刊 大本 二卷二冊 内閣文庫・東博

見返し「直海先生著 含英堂／韓人唱和産物筆語 班荆問譚／宇士新先生倭漢

用字式附」

序 寛延改元戊辰至節前 洛西海雲八十一翁百拙撰 2丁半

寛延戊辰九月 平安屈君燕 2丁半

寛延元年孟冬中澣 赤城老人魯山漫書 1丁半

著者 越中 直海龍元周(平安医、姓直海、名龍、字元周、号衡齋) 輯著・対

州 浅水武新齋校正

本文

卷上 10丁半

卷下 17丁

附録 和漢用字式 宇野士新著、直海龍元周校 6丁

後序 寛延改元秋九月 平安芥煥撰 2丁

寛延元年冬十月 東臯积浄壽書 1丁半

刊記 寛延紀元戊辰初冬 平安書肆 衣棚通姉小路上ル町 万屋作右衛門壽梓

○林家韓館贈答 刊 大本 二卷二冊 内閣文庫

見返し「延享戊辰之夏／林家韓館贈答／江都御書房 松栢堂梓」

詩人爵里 3丁

林信充*・林信言*・林信亮・野梁・南太元(評定所儒官)・徳力良弼(評

定所儒官)・土田貞儀(評定所儒官)・一色範通(国学生長)・小室直(国学

生長)・片岡直容(忍侯儒臣)・飯田煥(彦根侯儒臣)・岡井孝先(讃岐侯儒臣)・

深美珪(前橋侯儒臣)・中村文輔(讃岐侯儒臣)・井上敬致(津和野侯儒臣)・

榊原通嘉(国学生)・井上儀備(国学生)・矢崎永綏(大衛隊騎吏)・後藤世鈞(国

学士、本州文学)*・木部惇(守山侯儒臣)・桃生盛(石州人)・今井兼規(佐

倉侯儒臣)・衣笠一隆(国学生)・洪井孝徳(佐倉侯儒臣)・菊池武慎(国学生)*・

安藤思謙(国学生)*・屋代安章(北条侯儒臣)・多湖宜(松本侯に仕える)・

関安脩(国学生)* (実際に詩が所収されているのは*印のみ)

本文

卷一 16丁

卷二 16丁

刊記 寛延改元戊辰九月 御書物師 日本橋巷町目 出雲寺和泉掾續梓

○龍門先生鴻臚傾蓋集 刊 大本 一冊 国会図書館

序「題鴻臚傾蓋集首」寛延戊辰秋九月 駿陽积頼龍宗撰 2丁

积名 1丁

編著者 宮瀬龍門著 東都森尚賢子純輯

本文 10丁 唱和筆語

宮維翰、字文翼、号龍門、南紀人、年三十、為処士以教授為業

跋 寛延戊辰九月 東都森尚賢 半丁

刊記 宮瀬三右衛門著／江戸店本町三丁目 西村源六・京店堀川通錦上ル町

西村市良右衛門

識語 見返しに杏花園(大田南畝) 識語存

○和韓唱和録 刊 大本 二卷二冊 国会図書館

見返し「延享戊辰新鐫／文物整齐君子國 徳星列聚聖明朝／和韓唱和録／浪華

書林 稱航堂 醉墨齋壽梓」

序 「二邦連璧小引」延享夏四月 西陵源子登甫題 1丁

述言 浪華書林 醉墨齋欽白 半丁

姓名 4丁

本文

卷上 26丁半

内題「延享唱和」

編著者 村上秀範輯

菅栄(河州水)・豊川蒲城・木村恵迪・泉必東・賀美台・桐丹山・桐碧山・

鶴九阜・上月鶴洲・佐野振岡・向井銀台・管東嶽・留守括囊

卷下 19丁

内題「二邦連璧」

編著者 源攀髻子登輯

菅沼東郭・源四明・菅錦谷・江龍門・滕文谷・森南澗・藤嶮家・积等觀・

乾桃丘・華蘭台・西南溪・三浦龍洞・木松江・高田大陸

下附録 6丁

河合鹿門・岡拾翠・北谷東山

題後 醉墨齋 半丁

刊記 延享戊辰年五月 大坂書林 柏原屋與市・村上屋清三郎刊行

○和韓唱和附録 刊 大本 一冊 国会図書館

見返し「延享戊辰新鐫／文物整齐君子國 徳星列聚聖明朝／和韓唱和録／浪華

書林 稱航堂 醉墨齋壽梓」

角書 朝鮮筆談

姓氏 1丁半

編著者 村上秀範輯

本文 38丁

木下蘭臯・木下十洲・藤蘭宇・橘錦部・伊藤冠峯・坂倉澹水・片岡子蘭・

岩田南山・川那辺玉溪・佐山松溪・武田桃溪・稲本春溪・西田鶴溪・前田

竹溪・川那辺梅溪・垣内文徽・田中嘯臯・中尾梅溪・上月鶴洲・佐野振岡・

中村南米・太田龍溪

刊記 寛延改元戊辰八月 浪華書林 心齋橋筋順慶町 洪川與市梓

○和韓筆談薰風編 刊 大本 五卷二冊 内閣文庫

見返し「山宮先生著／和韓筆談 薰風編／東武 書肆文昌閣壽梓」

序 延享戊辰六月既望 門人武蔵上月典則公貽甫謹序 3丁半

姓名 3丁半 書林識

著者 山宮維深

本文

卷上 16丁 六月四日 江戸本願寺

卷中 14丁 六月五日尺牘・六月七日問答

卷下 20丁 六月四日・九日問答

附録

上 2丁 松崎觀海・石川麟洲の次韻

下 5丁 中沢九華(名芳、字蘭、東武医官)・平野包桑(名直道、字士行、

備中松山の要蔵)・上月思齋(名典則、字公貽、多古侯に仕ふ)

刊記 寛延元戊辰九月 東武書肆 通油町 須原太兵衛蔵

○和韓文會 刊 大本 二卷二冊 内閣文庫

見返し「括囊先生著／倭韓文會／浪華書肆 好文堂 稱航堂梓行」

序 寛延戊辰陽月下澣 門人岡田安敬叙 2丁

目録 1丁

姓名 1丁

編著者 留守友信(字退蔵、号希斎、又号括囊)著・岡田安敬編
本文

卷上 19丁 唱和筆語・書

四月二十三日 浪華西本願寺

卷下 17丁 唱和筆語

附録 2丁半 書

刊記 寛延元年戊辰冬十一月穀旦 大坂安土町心斎橋 好文堂植田伊兵衛梓行

◎延享韓使唱和 写 大本 一冊 内閣文庫

著者 林信充・林信言

本文 31丁半

◎延享五年韓人トノ唱和集 写 半紙本 三冊 蓬左文庫

延享五年五月七日 於性高院

一冊目 墨付3丁 唱和

千村伯濟

二冊目 墨付5丁 唱和

近藤秀雅

三冊目 墨付11丁 筆語

篠亮(字士明、濃州の人)

◎延享戊辰韓客對話贈答 写 半紙本 一冊 都立中央図書館

墨付 全22丁

多湖松江(名宜、字玄室、林祭酒門人、松本侯医官)と信使の唱和・筆語)

六月五日 浅草本願寺

韓客對話贈答として、初日から三日目まで對話した人名三十人が載り、以下は記録。

◎韓客唱和 写 一卷 天理図書館

六月十日 於江戸客館

拜崎琴台と製述官・書記等との筆談(自筆)

◎韓客筆譚 写 大本 二卷二冊 内閣文庫

著者 太医令橘元勲識

本文

一冊目 34丁

二冊目 10丁

※版本「仙槎筆譚」の原本か。

◎韓人唱和詩 写 大本 一冊 蓬左文庫

本文 墨付6丁

松平君山・霍山

◎韓人トノ唱和詩集 写 大本 二冊 蓬左文庫

一冊目 墨付6丁

六月念三日 於名古屋賓館

松平秀雲・同忠武

二冊目 墨付5丁

木下蘭臯・十洲

◎牛窓録 写 大本 一冊 国会図書館

編著者 井通熙編次

本文 12丁

四月十六日・十七日 牛窓港

◎獻紵藁 写 大本 一冊 内閣文庫

引 延享五年六月 太室井孝徳撰并書 1丁半

著者 太室井孝徳子章氏著

本文 9丁

◎縞紵集 写 大本 一冊 都立中央図書館

編著者 桃生百川(名盛、字懋功、石州人、林門人、城東浅水のほとりに住む)

墨付 全12丁半

六月四日 浅草本願寺（同じ日に小室直等九人と会す）

七月六日 賀宴に陪した詩が載る

卷末識語「春台写之」

◎鴻臚傾蓋編 写 大本 一冊 柳川古文書館

編著者 大蔵永綏（姓矢崎、字克紹、号龍山）編

本文 11丁半

大蔵永綏・上月鶴洲（名信敬、字丹藏、別号専庵、浪華人）・菅沼東郭

六月五日 江戸浅草客館（徳力良弼等と会す）

◎星輶余轟 写 半紙本 一冊 蓬左文庫

前編 12丁

五月七日 於性高院

木下蘭皐・十洲（蘭皐男）

後編 9丁

六月廿三日 於性高院再宿

木下蘭皐・十洲

◎桑韓萍梗録 写 大本 一冊 蓬左文庫

著者 名越南溪編

本文 12丁

筆語唱和 南溪の他、吉田政徳・鈴木繁祐・秋山林

末に「朴敬行評越克敏詩」を付す

▽韓館筆語 写 大本 一冊 京都大学文学部

内題「延享戊辰韓館筆語・贈答／桑韓萍梗録」

本文 17丁

蔵書印「水戸青山氏蔵」

※蓬左文庫本の内容に加えて使節の三使に送った書（正使宛 河合正修撰・副

使宛 徳田庸撰・従事官宛 名越南溪撰）と三使からの返簡を付す。

◎朝鮮筆談 写 大本 二卷二冊 内閣文庫

内題「戊辰筆語唱酬」

本文

卷乾 22丁

卷坤 24丁半

河村春恒（字子升、一字長因、号元東）東都医官

五月二十八日、六月三日、五日、十日、十二日。医学に関する問答。

◎朝鮮筆談 写 大本 二卷一冊 内閣文庫

内題「朝鮮人筆談」

本文

卷上 33丁

卷下 28丁半

野呂実夫（字元丈、号連山）・実和（字元順、元丈の男）

五月二十八日、浅草本願寺。医学に関する問答。

◎鳴海駅唱和 写 大本 一冊 蓬左文庫

内題「鳴海駅唱和」 9丁 唱和・筆語

五月 横井時敏・関弘・宮田梅庵

内題「府下唱和」 26丁 唱和・筆語

千村夢沢・佐藤頤庵・中西淡淵・井上儀助（大湫）・橋本夏

六月二十三日 性高院

須賀玉潤・須賀精斎

内題「起駅唱和」 10丁 唱和・筆語

帰路 宮田梅庵・堀典膳・服部草玄

◎賓館唱酬 写 大本 一冊 国会図書館

序 延享戊辰之秋 国学生河東関安脩序 2丁半

本文 13丁

今井兼規（字範、号崑山、東都人、林祭酒門人）と信使との唱和筆語

卷末識語「寛延元戊辰霜月吉旦 春桃源写之」

◎萍交唱酬録 写 二卷

著者 伊藤霞台(名輝祖、字必大、福山府講官)

※『延享度朝鮮通信使と福山藩・町方の記録』所収

◎萍水草 写 大本 一冊(他編と合) 祐徳稲荷神社

編著者 姓河口、名子深、字穆仲、号静斎、別号亭山

本文 5丁半

四月十八日 室津

七月八日 不交

寛延冬十月望日 静斎識

※「西上紀行」等と合。

◎蓬左賓館集 写 半紙本 一冊 蓬左文庫

著者 千村伯濟

元表紙墨書「蓬左賓館集 下」

内題「蓬左賓館集 六月廿三日再会」

本文 墨付6丁 唱和・筆語

◎蓬左賓館唱和 写 半紙本 一冊 蓬左文庫

著者 近藤秀雅

内題「蓬左賓館唱和 六月廿三日再会」

本文 墨付5丁 唱和・筆語

末「延享戊辰六月□(切り取られている)」

◎両東筆語 写 大本 六卷三冊 内閣文庫

著者 東都医官 丹羽貞機

本文

卷一 12丁 六月五日

卷二 11丁半 六月七日

卷三 12丁半 六月九日

卷四 12丁半 六月十日

卷五 16丁半 六月十一日

卷六 11丁 六月十二日

庶物類纂叙 戊辰流月上院 朝鮮国大医趙徳祚聖哉松斎謹序 1丁半

書の往来 5丁

◆朝鮮人大行列記 刊 半紙本 一冊 東京国立博物館

朝鮮人來朝物語序 1丁

ふね図 3丁

朝鮮人行烈次第 13丁。柱に「延享」とあり。

本文 7丁

刊記 延享五年戊辰正月吉日 京寺町松原上ル町菊田七郎兵衛板

◆延享五年戊辰朝鮮人來朝記 極大(折) 一帖 東京国立博物館

構成 一枚刷りを5枚、帖に仕立てたもの

(1) 朝鮮人來朝人数附・朝鮮国ヨリ発足道筋(28、3×37、8)

延享五戊辰年五月 江戸書林 板元 元大工丁大和屋文蔵/売所

南油丁外屋五郎右衛門

(2) 御大名様方より朝鮮人御馳走 御迎馬附 上之卷(32、0×42、5)

(3) 江戸浅草東本願寺 朝鮮人逗留之中御馳走御馬附 御迎送馬附ノ追

加(32、2×42、6)

板元 神田富山町中村清次郎

(4) 恭平 朝鮮人來朝御大名様方 御馳走御固御場所附(32、0×47、

1)

はん元 江戸神田富山町二丁目中村清次郎

(5) 朝鮮人帰国之節江戸ヨリ舞坂迄御送馬附・新居ヨリ山州淀迄御送 下

之卷(32、0×42、0)

板元 江戸神田富山町中村清次郎

宝曆十四(明和元・一七六四)年

○河梁雅契 刊 大本 一冊 国会図書館

序 宝曆甲申夏四月 張藩書室監君山源秀雲題 1丁半

編著者 平時貫校

本文 12丁

姓源、名正卿、字子相、号滄洲、又緑雲居主人、仕本藩

二月三日・三月晦日 於起駅資館

附録 2丁半

姓藤原、名利恭、字士安、号東臯

跋 甲申夏 楚々道者廸百順 2丁

○韓客人相筆話 刊 大本 一冊 東京国立博物館

見返し「新山退甫道人著／韓客人相筆話／浪速 天橋窟蔵版」

序 明和改元の仲秋 岡白駒撰 3丁

「韓客神相編序」宝曆十四年甲申四月穀旦 南海陶山宛撰 2丁

「韓客神相編序」明和元年甲申秋八月 平安芥煥彦章撰 2丁

門人林東庵相鑒筆話 2丁

編著者 日本相士退甫道人新山退著／弟千之・門人内藤無角校

本文 19丁

正月下旬 浪華賓館、三月上旬・下旬 九條嶋船中、四月 帰路浪華賓館

韓客形容 7丁 門人精馬東写

韓人通論 1丁

部位名目解 3丁 新山千之著

門人姓名 1丁

刊記 天橋窟蔵版／明和改元甲申年秋八月 浪華嶋之内心斎橋南江入 松村九

兵衛・同高麗橋壺丁目 浅野弥兵衛

○観楓互詠 刊 大本 二卷二冊 中野三敏先生

序 明和元年冬十二月望 仙楼奥田元繼題 2丁

諸君姓名 1丁半

山口西周・岡洋溟・林青桂・林伏鸞・白石栄・鳥山崧岳・千庫鷺洲・寺井

西陵・松梧亭・前田元一・水月(朗淡律師)・堀須洞龍・菅泰庵・鄒茅亭・

板倉澹翠・永来昆陵

本文

卷上 22丁

卷下 10丁半

刊記 甲申明和紀元閏十二月発行 洛陌錢屋善兵衛・大阪名倉又兵衛・同上西

田理兵衛

○雞壇嚶鳴 刊 大本 一冊 大阪府立図書館

序 宝曆甲申夏五月 林義卿撰 3丁

宝曆甲申之仲夏 河内田黄裳処文謹撰於緑羅館 2丁

編著者 河内橋庵北山彰世美録 弟幹世禮・門人木明徴定保校

本文 16丁

正月 浪華本願精舎

附録

序 明和元年八月三日 烏石葛辰識 1丁

編著者 浪華北山皓白甫録

本文 10丁

刊記 書林 京都錢屋善兵衛・大坂西田屋理兵衛・河内屋喜兵衛・江戸須原茂

兵衛

※『筆語』と合一冊。『筆語』は、同時の筆談の跡をとどめる紙43丁分を綴じ

たもの。

○講餘獨覽 刊 大本 一冊 内閣文庫

序 明和元年秋八月 佐倉府文学井孝徳撰 2丁半

編著者 信濃南宮岳著／浪華三浦言君謹・高須水谷申公甫輯校

本文 19丁半

跋 明和元年仲秋之望 友人紀徳民題 1丁半

刊記 明和元年甲申九月 平安書林 文泉堂林権兵衛・同出店林正介

※『日本随筆集成』四所収

○三世唱和 刊 大本 一冊 刈谷

序「題源氏三世唱和卷」時甲申孟夏 秋月書于浪華江上 2丁

「三世唱和小引」年次なし 君山題 1丁半

編著者 門人源正卿・岡田宜生全校

本文 5丁半

松平君山(六十八歳)・霍山(四十六歳)・南山(二十歳)

二月三日

附録 8丁半

書・帰国の際の唱和(三月二十九日)

広告 半丁

刊記 大日本宝曆十四年六月吉日 平安書林 寺町松原上ル丁 八木次兵衛・

尾張書林 名古屋本町廣小路下ル丁 津田久兵衛全刻

柱記「玉山房蔵」

※『名古屋叢書』文学編2所収

○殊服同調集 刊 大本 一冊 国会図書館

序 宝曆甲申夏五月 張国僧百非仁黙天 4丁

姓名「九先生姓名録」 1丁

千村夢澤・千村鷺湖・千村鷺洲・土屋梅嶺・若山南菜・西村菊莊・今井田

勝山・星野東亭・岡田篁洲

編著者 尾張 林文翼子鵬緝録

本文 23丁半

跋 甲申五月之吉 尾張桃源高景濬 1丁半

広告 1丁

刊記 宝曆甲申六月 皇都書林 寺町松原上ル丁 八木次兵衛・張藩書林 本

町廣小路下ル丁 津田久兵衛全刻

柱記「玉山房蔵」

○青丘傾蓋集 刊 大本 一冊(卷上)存 中野三敏先生

見返し「青丘傾蓋集／香山園蔵版」

叙 宝曆甲申孟夏 駿州清恒謹書 3丁

宝曆甲申朝鮮聘使学士書記姓氏爵里略 半丁

豆駿唱和人姓字郷里 半丁

編著者 駿東清恒子憲編集

本文 唱和

卷上 20丁

秋山章・西原彰・清恒・鳥津実・間宮久・秋山徳・釈源淑

○青丘傾蓋集 写(マイクロフィルム) 一冊(卷下)存 東北大学狩野文庫

本文 筆語

卷下 24丁

秋山章・西原彰・鳥津実

※版本写し(版本は未見)

○桑韓画会家彪集 刊 大本 一冊 都立中央図書館

序 寛延改元戊辰季穉良且軌同源直救題 2丁

口絵 朝鮮国蘇斎草 1丁

編著者 小森信友

本文 28丁

大岡春下が韓人李蘇斎と大坂にて画会を行ったのを祝した詩歌句集

刊記 于時寛延二己巳歳三月日 大坂南本町一丁目 書林 村井喜太郎開板

○桑韓筆語 刊 大本 一冊 内閣文庫

見返し「閩南先生／桑韓筆語／宝曆甲申春 尚古堂」

序 年次なし 東都稲垣長章釋明父識／鄱陽山元禮書 2丁

題言 宝曆甲申初夏 医官邨岡彭題

識語 山田正珍識 1丁 (題言を含む)

編著者 東都医官 山田正珍宗俊編・門人 於林憲章子文校

本文 20丁半 筆語

山田正珍 (菅原氏、字玄同、一字宗俊、号因南、年十六)

二月二十三日・二十四日・二十八日・三月五日・八日

刊記 宝曆十四甲申四月日 東都書肆 本町三丁目 西村源六

尚古堂藏

広告「兩答唱和録」

○東渡筆談 刊 大本 一冊 内閣文庫

序 年次なし 松崎惟時撰 2丁

年次なし 劉維翰撰 2丁

編著者 東渡釈因静 (名因静、字獅子吼、号東渡) 著

本文 33丁半 唱和筆語

二月十九日・二十二日・二十九日・三月六日 於本願寺

題後「題因静上人詩文軸後」甲申仲春 朝鮮元玄川子書 1丁半

刊記 浅草御堂前 辻村五兵衛梓行

○東遊篇 刊 大本 一冊 中野三敏先生

序「那波生東遊詩序」甲申六月 小華宜寧南玉序 3丁

「東遊酬唱序」甲申季夏 成大中 3丁

「書那波孝卿東遊卷後」甲申六月十四日 元重拳 4丁

目録 半丁

名氏 半丁

編著者 那波師曾孝卿録

本文 37丁半

附録 3丁半

刊記 明和元年十二月 風月荘左衛門発行

※那波魯堂には、他にこの時の筆語集『朝鮮聘使問答筆記』一冊があった。その一部は『四国正学／魯堂先生』に掲載されている。

○長門癸甲問槎 刊 大本 四卷四冊 都立中央図書館

序 甲申春三月 長藩山根清撰 4丁

姓名 1丁

滝鶴台・草場大麓・山根南溟・滝士儀・秦高山・和智東郊・奈古屋大原・

竹中俊屋・香取太華

本文

卷一 28丁

卷二 30丁半

卷三刊記 明和二乙酉年秋九月 長門 明倫館蔵版

卷三 40丁

卷四 27丁半

卷四刊記 明和三丙戌年秋八月 長門 明倫館蔵版

○表海英華 刊 大本 一冊 国会図書館

序 宝曆歳集甲申夏四 張藩書室監君山源秀雲題 1丁半

編著者 国枝守義校

本文 22丁 唱和筆語

岡田新川 (新川の弟大壑の詩に対する唱和も存)

二月三日 張州性高院

跋 年次なし 尾張山三秀 2丁

広告 1丁

刊記 大日本宝曆十四年六月吉日 平安書林 寺町松原上ル丁 八木次兵衛・

尾張書林名古屋本町廣小路下ル丁 津田久兵衛全刻

柱記「玉山房蔵」

○賓館唱和集 刊 大本 一冊 都立中央図書館

外題「十四童賓館唱和集」

序 年次なし 松窓閑脩齡君長撰 5丁

題 年次なし 衡山源惟直題／松溪平宗準書 4丁

編著者 平俊卿子彦輯・書

本文

筆語 5丁

唱和 27丁

奥付 宝曆十四年甲申春三月日 京都書肆 橋屋治兵衛發行

※奥付以外は左板

○問槎餘響 刊 大本 二卷二冊 内閣文庫

序 年次なし 魯堂那波師曾撰／崎陽平千里書 3丁半

姓名 1丁

石川金谷・谷雄江・伊東龍山・小屋天柱・大嶋星河・田中淡州・伊藤冠

峰・田勝山・星野東亭・狩野華陽

編著者 伊藤維典伯守輯

本文

卷上 25丁

卷下 22丁

正月二十五日(三月晦日 大坂から尾張に於いて

刊記 明和元年甲申九月 平安書林 文泉堂林権兵衛・同出店林正介

○栗齋鴻臚摭筆(栗齋探勝草に付す) 刊 半紙本 三卷二冊 都立中央図書館

序 明和乙酉冬至日 津藩奥田士亨書于三角亭中 2丁

明和丁亥冬十月 平安江都綬題于賜杖堂中 4丁

後序 年次なし 浪華小野稲 1丁

編集者 内山栗齋

本文(栗齋探勝草)

卷上 16丁

卷下 8丁

附録(栗齋鴻臚摭筆)

釈名 1丁

唱和・書 12丁

五月四日・五日

跋 明和丙戌季秋 但陰草加親賢公輔氏撰／劉元寧書 3丁

刊記 宝曆十四年甲申正月吉 撰陽書林 大坂高麗橋老町目 野村長兵衛發行

○両好餘話 刊 大本 二卷二冊 架蔵

序 宝曆甲申夏五月 門人衢貞謙識／松方好書 2丁

目録 2丁 門人勝元綽識

編著者 奥田元繼／門人茅山衢貞謙士鳴・南浦勝元綽以寛同校

本文

卷上 26丁

卷下 18丁

卷末「宝曆十四年甲申夏五月 奥田元繼自識」

附録 6丁

茅山・南浦の筆語

刊記 大阪博労町心齋橋筋東側 書林西田屋理兵衛

○両東闕語 刊 大本 二卷二冊 内閣文庫

序 明和改元冬 南浪江忠圍撰 2丁

明和改元甲申季冬穀旦 東都医官野呂実和元順識 2丁

編著者 松本良庵識

名刺並韓人名字 1丁

本文

乾卷 25丁 筆語・問答・唱和

松本良庵(東都口科侍医法眼松本善甫長子、名興長、字千里)

三月朔日 於本願中堂之東廟

坤卷 71丁半 筆語・問答

横田東原(名準大、字君繩)

二月 松本・多紀と共に中堂に行く

刊記 明和元年申歲十一月 東武書肆 浅草御堂前辻邨五兵衛・下谷稲荷町越

後屋藤兵衛

○倭韓医談 刊 大本 三卷一冊 内閣文庫

見返し「百花街蔵」

序 宝曆甲申夏四月 東奥石宣明撰 5丁

引 西湖坂上善之識 1丁

編著者 東都坂上善之編・同中沢以正校

本文 医学の問答

姓坂上、氏田村、名善之、字元長、号西湖

二月二十日・二十一日・二十三日・二十五日・二十六日・三月十日 浅草

本願寺

卷上 19丁

卷下 21丁半

附録 2丁 唱和・諺文

○和韓医話 刊 大本 二卷一冊 内閣文庫

序 明和紀元甲申臘月日 張藩書室監松平秀雲題 2丁半

明和改元季秋 門人松浦壽師敬識／平安渡辺愿書 2丁

編著者 張藩 山口忠居湛玄著・松浦壽師柳昌校

本文 医学の問答

姓山口、名忠居、字湛玄、号安斎・橙橋齋主人

卷上 8丁半

二月三日 張藩大雄山性高院

卷下 11丁

四月二十九日 張藩大雄山性高院

跋 明和乙酉春杪 八事山空華道人識 2丁

明和甲申秋日 書於橙橋齋山口忠居 1丁半

刊記 明和二乙酉年八月吉日 書林 京都堀川通仏光寺下ル町 錢屋七郎兵

衛・尾州名古屋本町老町目 風月堂孫助・同町 菱屋利兵衛・同九町目

同久兵衛

○和韓雙鳴集 刊 大本 六卷五冊 九州大学附属図書館

序 明和元年八月 青霞主人景貫題／九華山人并彝書 1丁半

「問佩集序」明和元年壯月旦日 正二位前權大納言式部大輔菅原綱忠 3丁

「仙水遊戯序」明和二年春正月 河曲合離麗王撰 3丁

目錄 2丁半

朝鮮通信使一行座目 8丁

本文

卷一「問佩集」 23丁

使序官人大江資衡釋圭甫著

卷二 28丁

龍世華・平信美・鳥崧岳・釈圓巖・伴直治・関周・本子誠・藤邦・劉岑

友・藤北岳・錢必東・西村古愚・角清瀧・角篤敬・御厨西岳・御厨東岳・

浅井元甫・館屯・関維元・松井文貫・高田伊嶮

卷三「芥園問槎」 20丁

芥東里・井赤岸・館濟美・養老山人・山本長明

卷四「仙水遊戯」 10丁半

定福寺(名沙門、号德雲、備陽人)

卷五「筑前藍嶋唱和」 25丁半

島村秋江・井土魯洞

卷六「宝曆十四年甲申正月廿八日本国寺唱和」「四月三日再会」 28丁

北尾春倫・周克・敷内堅・北尾孟哲

跋「問佩集跋」明和甲申季秋 正四位下行少納言侍従大内記文章博士菅原輝長

題 2丁

京都書林廣文堂藏書目録 1丁

刊記 明和二年乙酉九月 平安書肆 奎文館瀬尾源兵衛・廣文堂高橋清兵衛

◎決決餘響 写 半紙本 二卷一冊 九州大学附属図書館

編著者 筑前亀井魯道載唱和

本文

卷上 29丁

十二月八日・十日 藍嶋

卷下 13丁

書簡など

附録 8丁

卷末識語「宝曆癸未臘月」

※『亀井南溟昭陽全集』第一卷所収

◎歌芝照乘 写 大本 一冊 内閣文庫

編著者 太室井孝徳

本文 11丁半 筆談唱和・尺牘

跋 宝曆甲申季春 如來紀徳民 1丁

◎客館唱和 写 大本 一冊(他編と合) 国会図書館

編著者 久保盛斎

本文 12丁

二月二十二日・二十四日・二十五日・三月二日 浅草客館

柱記「青黎閣」の料紙を使用

※詩文・墓誌・墓碑銘と合一冊。『香川県史』15資料編所収

◎韓館応酬録 写 大本 一冊 福島県立図書館

序 甲申八月下澣之日 台州山人熊阪邦撰 1丁

編著者 石金宣明著 熊阪台州評

本文 21丁

二月二十五日・三月六日 江戸

書入 「飛鳥山館」(熊阪台州) 旧蔵

◎韓館唱和 写 大本 七卷七冊 内閣文庫

序 宝曆甲申暮春下澣 国子祭酒林信言子恭識 1丁

後序 宝曆甲申三月 朝散大夫秘書監兼経筵講官林信愛子節識 3丁半

本文

卷一 39丁

卷二 39丁

卷三 33丁半

続集

序 甲申暮春下澣 林信言 1丁

後序 甲申三月 林信愛 1丁半

卷一 86丁半

卷二 67丁

卷三 54丁

別集

序 甲申暮春下澣 林信言 1丁

28丁半

林信言・林信愛・松本為美・久保泰亨・山岸蔵・林信有・徳力良弼・松田

久徴・後藤世鈞・木部敦・洪井平・河口俊彦・片岡有庸・井上厚得・青葉

養浩・南太元・小室当則・関脩齡・中村弘道・飯田良・宮武方甄・笠井載

清・土田貞儀・林信富・飯田恬・今井兼規・原馨・木村貞貫・岡井籙・糟

尾患廸・岡明倫

二月二十二日～三月四日 浅草本願寺

◎甲申韓人唱和 写 半紙本 二卷二冊 蓬左文庫

一冊目 22丁

内題「韓人唱和」
松平君山・霍山・南山・千村鵝湖・鷺洲・大田資憲・源滄洲・岡田

新川・関祖洲・八木青桃・森岡璋斎・田中養純・浅井養老山人・勝佩蘭齋・岡玄杏・加藤桂斎・桜井竜門・小鹿鸞岡

二冊目 36丁

内題「韓人婦国唱和」

竹田嵩山・千村鵝湖・大田資憲・藤原東臯・源玉函・千村鷺洲・田中養純・

岡玄杏・田中順承・竹内寿・安藤黄裳斎・八木青桃・森岡璋斎

鳴海駅―関祖洲・桜井竜門・小鹿鸞岡

起駅―井上赤城・宇都宮蘭臯・清水蘭台

韓人婦国唱和拾遺

和新川詩

姓名次第ほか

◎牛渚唱和集 写 半紙本 二卷一冊 中野三敏先生

編著者 井潜仲龍父輯

本文

卷上 37丁半

正月乙丑の夜 備前藩賓館

卷下 38丁

尺牘など

◎傾盖集 写 大本 一冊 中野三敏先生

序 甲申夏 太室井孝徳撰 3丁

宝曆甲申夏四月 蓬萊木貞貫撰 2丁

後序 甲申春 松窓関脩齡君長撰 3丁半

朝鮮通信使姓名 2丁 沢田東郊画題

編著者 東郊平鱗景瑞

本文 37丁

◎傾盖唱和録 写 半紙本 一冊 (他書と合) 国会図書館

本文 9丁半

姓辺、名瑛、小字廷輝、十有六

二月二十九日 於東都本願寺

※他に「崔天滄見殺事」「朝鮮筆記」などと合綴

卷末識語「歳在甲寅嘉永七三月念一寫焉／源崇廣」

◎甲申韓客贈答 写 大本 一冊 祐徳稻荷神社

編著者 土田貞仍 (字子羽、号虬壑、林祭酒門人)

本文 6丁

二月二十五日 浅草本願寺

◎甲申榎客萍水集 写 大本 五卷一冊 都立中央図書館

内題「榎客萍水集」

姓名 3丁半

内容

卷一 5丁 市浦直春 (字子木、号南竹、備前侯長槍隊兼国史督)

卷二 10丁

和田邵 (字伯高、号一江、又号衡泌舎主人、備前文学)

卷三 23丁

井上四明

附録 23丁半 書牘など

卷四 19丁半

近藤西涯

附録 13丁 書牘

卷五 7丁

龜山德基

柱記「高田均瞻写」

◎編紵集 写 大本 二卷一冊 九州大学松濤文庫

朝鮮側姓名 半丁

編著者 菅時憲(字習之、稲垣対馬守家臣)
本文

卷上 10丁半

附録 3丁

卷下 9丁半

赤坂

◎鴻臚館和韓詩文稿 写 大本 一冊 中野三敏先生

内題「鴻臚館詩文稿」

編著者 藤資哲(字子明、号惶齋、大洲侯記室)

本文 28丁

二月十八日・十九日・二十日・二十一日・二十四日・二十五日・三月四

日・六日・九日

書後 甲申冬陽月 藤資哲識 半丁

◎松庵筆語 写 半紙本 一冊 内閣文庫

編著者 今井松庵(名敏卿、字子慎、東都人、松崎才藏門人)

本文 25丁 筆語

二月二十九日・三月三日・五日・九日 本願寺

卷末識語「明和甲申秋写于烏衣巷寓居」

◎東様餘談 写 大本 三卷一冊 無窮会神習文庫

序 明和甲申秋 太室井孝徳撰 3丁

明和元年甲申七月 宮田明叙 3丁半

明和元年甲申之歳夏六月 南紀劉維翰書諸卷首 3丁

姓名 1丁

朝鮮側姓名画 7丁

編著者 劉維翰文翼輯

本文 筆談

卷上 14丁

三月七日 江戸
卷下 18丁

三月十日 江戸

附録 6丁半 詩

◎萍遇録 写 大本 二卷二冊 内閣文庫

編著者 淡海 竺顯常大典撰

本文

卷上 29丁 筆語と信使の動行

卷下 12丁半 書・詩文

◎品川一灯 写 大本 一冊 内閣文庫

編著者 太室井孝徳

本文 18丁 筆談唱和・尺牘

三月十一日 帰路の信使と品川で会う

跋 明和九年秋七月 浪華竹山居士中井積善謹書於江都客舎 1丁半

後序 天明甲辰暮春之初 安芸頼惟完書于霞関邸舎 1丁

◎宝曆甲申朝鮮人贈答録 写 大本 一冊 福井市立図書館

外題「宝曆贈答録」

編著者 鳥山崧岳著

本文 12丁 唱和・筆語

於大坂

蔵書印「越国文庫」

※福井市図書館HP「デジタル貴重書」に画像あり。

◎来観小華使臣詩集 写 大本 一冊 清見寺

本文 墨付43丁

関根主忍(住持)・性海(前住)・祖屋・祖鎌・徳田見龍(駿河書生、

十七歳)・弁珠・仙牛

仲春中浣 於清見寺

※『清見寺綜合資料調査報告書』

◇藍島唱和集 写 大本 合一冊 櫛田家

朝鮮側姓名 半丁

本文 17丁半

櫛田菊潭(字文哉、筑前州書記)

宝曆十三年十二月八日・十日 藍嶋

※享保度「藍島唱和集」と合。

◆〔大行列記〕 刊 半紙本 二冊 東京国立博物館

内題「朝鮮人三使登城行列附宗対馬守殿江戸入行列」

柱題「大行列記」

卷上 見返し 序半丁

本文 14丁 彩色

刊記 板元書物問屋 江戸浅草東本願寺御堂前 辻村五兵衛

卷下 見返し「宗対馬守殿登城行列／国々御大名方御馳走附並曲馬図」

本文 9丁 彩色

朝鮮人来聘略年号 1丁半

奥付 宝曆十三癸未歲五月吉旦 書林 京都壳所寺町通松原上ル町菊屋七

郎兵衛・東都浅草東本願寺御堂前辻村五兵衛板

◆朝鮮人来朝物語 刊 半紙本 一冊 九州大学附属図書館

見返し題「朝鮮人大行列記大全」。見返しに目録が載る。

朝鮮人来朝物語序(年次・署名なし) 半丁

朝鮮人来朝年代記 半丁

本文 5丁

朝鮮人行列次第 14丁

船図 3丁

刊記 宝曆十三年癸未三月吉日 京寺町松原上ル町 菊屋七郎兵衛板

蔵版書物目録(菊華堂) 1丁

朝鮮通信使唱和集目録稿(二)(高橋)

◆〔大船用文〕 刊 大本 一冊 都立中央図書館

外題「宝曆／新刻」の角書のみ残る。柱題「大船用文」

朝鮮人行列図 9丁半

本文 24丁半

奥付 作者画工 北尾雪坑斎／宝曆十三年未三月吉旦／京都書林 寺町松

原上ル菊屋七郎兵衛／大坂書林 高麗橋壺丁目藤屋弥兵衛・小濱町

河内屋八三郎・順慶町壺丁目筋田原屋平兵衛

※『稀覯往來物集成』第一九卷所収。同書は、書名を「大船用文三韓蔵」

(『大阪出版書籍目録』による)としている。

文化八(二八二)年

○鷄林情盟 刊 大本 一冊 中野三敏先生

序 文化九年重陽 右羽林大将軍藤原環識 2丁

編著者 加賀威如齋三宅先生／朝鮮李太華・金清山・李泊翁・李菊陰唱和筆談

／門人平安川越有邦左門・浪華篠山萬福子同・崎陽神保五嶽子嶽編次

本文 28丁半

五月二十四日・六月二十日・二十六日

附録 朝鮮使人名氏 1丁半

跋 文化九年壬申春二月 門人篠山萬福謹識 半丁

刊記 文化九年秋刊行 書林 京師林権兵衛・吉田四郎右衛門・大阪河内屋喜

兵衛・江戸松本平助・京師出雲寺文二郎發兌

◎唱酬筆語並詩稿 写 大本 一冊 佐賀大学小城文庫

本文 25丁半

四十宮淳行・千葉平格

五月十七日・六月一日・十四日・二十三日

朝鮮人上陸宗対馬守殿ヨリ御馳走 3丁半

卷末識語「文化八年辛未冬十一月写」

◎辛未和韓唱酬録 写 大本 一冊 蓬左文庫
本文 38丁 唱和・筆語

四月佛生日 願海(二葦禪師)・樵隱・觀瑞・源六浦・和氣容(古賀先
生門人)・川辺清二郎(対州文学)

卷末識語「文化八歲次辛未五月写於對州金石客舎／龍泉猪飼正毅」

◎接鮮瘡語 写 半紙本 一冊 都立中央図書館(特 3931)

接鮮紀事 4丁

接鮮瘡語

上—17丁半 下—29丁

掛川松崎復編

※『慊堂全集』卷二十三所収

▽接鮮瘡語 写 半紙本 一冊 都立中央図書館(特 3932)

接鮮瘡語

上—15丁 下—25丁半

接鮮紀事 3丁半

◎贈答詩鈔 写 大本 一冊 国会図書館

外題「精里筆談」(後表紙)

角書「日本豊洲／朝鮮泊翁」(元表紙)

序 天保丁酉巧夕之後一日 後学太山誠撰

本文 3丁半

岡本豊洲 六月二十日

附録 客館筆談抄録 2丁半

古賀精里

▽享余一瓣 写 中本 一冊(他書と合) 国会図書館

題辭 壬申梅月 精里撰 半丁

本文 3丁半

附録 客館筆談抄録 2丁半

古賀精里

題後 癸酉嘉平月 備後菅晋師拜具

天保十年己亥初冬 浜松鹽谷世弘謹識

跋 年次なし 太山誠謹跋 1丁半(題後と合)

※『中興五侯詠』等と合綴

◎対礼余藻 写 大本 一冊 佐賀大学小城文庫

本文 109丁

上 六月廿一日客館筆語・廿三日客館筆語

古賀精里

中 六月廿一日客館筆語・廿三日客館筆語・二十四日客館筆語・二十六日以

酌庵筆語・六月廿一日客館唱酬・廿三日

古賀精里・草場珮川・高津溜川

附録 7丁半 別後來信

補遺 5丁

※『草場珮川日記』上卷・『精里全書』(近世儒家文集集成15、外集・外集附録

を含む)所収

▽対嶋筆語 写 大本 一冊 国会図書館

内容は「対礼余藻」に同じ

※狩野文庫本には、各巻末に「丁丑八月十八日校正畢煜識／庚辰六月十四日対

校一過那波希顔・鈴木諧」の識語が残る。

◎馬島唱和 写 半紙本 一冊 国会図書館

本文 15丁

以酌庵僧玄宜(字月耕、号樵隱)・僧守航(字願海、号一葦)・僧觀瑞(号

負暄)・源方啓(号六浦)・吉田源蔵(京師人、樵隱從者)

書人 表紙墨書「優游社蔵書」

◆文化未歲対州信使行列図 刊 横本 一冊 都立中央図書館

本文 7丁

※墨印に手彩色。本来一枚ものを冊子に仕立てたもの。

◆朝鮮人來朝行列記 刊 中本 一冊 国会図書館
見返しに序が貼付 年次なし 十返舎一九誌
本文 絵12丁

跋「朝鮮人來聘略年号附」1丁

奥付 画図 喜多川歌麿／筆耕 判治晋瓶書

文化八年辛未冬十一月吉日／板元 対州大町 三木屋喜左衛門／売

弘願人 江戸本石町十軒店 西村屋源六・同田所町 鶴屋金助

※都立中央本には扉があり、その裏が序文になっている。但し、序文の署

名は削られている。扉には「蒙御免 文化八年辛未年／冬十月 発行／

朝鮮人來朝行列之記 全／東都書林 文刻堂・双鶴堂合刻」とある。

◆「朝鮮人來朝行列図」 刊 半紙本 一冊 都立中央図書館

一枚ものを冊子に仕立てたもの。六枚からなる。順に①～⑥の番号があり、
最後の一紙には番号がない。正使「金履喬」とあることより、この度とわ
かる。

刊記 豊清画 版元 対州三木屋喜左衛門／売弘所 江戸 西村源六・鶴

屋金助・虎屋治右衛門

補遺

寛永十三(一六三六)年

◎朝鮮人筆談 写 大本 一冊 京都大学富士川

本文 墨付14丁半

野間三竹(静軒)・刑部卿法印

明暦元(一六五五)年

◎朝鮮三官使酬和 写 半紙本 一冊 都立中央図書館

本文 墨付12丁

六月下旬～八月中旬 於藍嶋・阿弥陀寺

中達(九巖上人)・紹柏(茂源長老)と三官使との唱和

天和二(一六八二)年

○和韓唱酬集 刊 大本 五卷七冊 国会図書館

目録2丁

祖辰(東福寺、辰長老)・伯順(高氏)・西峰(松下見林)・鷄峰(林春宗)・

整宇(林春常)・春庵(南氏)・漸軒(坂井白元)・鶴山(人見友元)・復軒(山

田原欽)・元甫(長岡氏)・山立(長岡氏)・洞雲(山本氏)・梅林(福住道祐)・

了庵(熊谷立閑)・顕靈(相國寺、靈長老)・蒙窩(堀正朴)・義齋(黒川玄達)・

栄元(谷川氏)・益亭(橋本元長)・誠齋(三宅堅恕)・玄機(相國寺、大方)・

玄縁(相國寺、別宗)・竺嶺・貞幹(木下順庵)・遜宇(三宅元孝)・淑慎(三

宅道達)・梅隱(浅野新五郎)・近信(舟木立敬)・養専・順宣(原田氏)・菊

潭(木下寅亮)・東庵(青木氏)・正義(小原善助)・覚印(大徳寺、義諦)・

滄洲(向井小三次)・富春(星野心奎)・三恕(田村氏)・震沢(柳川順剛)・

晩節斎(板坂為篤)

本文

首 35丁

一ノ一 38丁

一ノ二 38丁

二ノ一 30丁

内題「西京筆語」 柳川震沢

二ノ二 35丁

内題「東都筆語」 柳川震沢

三 45丁

内題「書牘」 柳川震沢

四 23丁

朝鮮側姓氏職号

内題「兩東唱和」 板坂晚節齋ほか

刊記 天和三癸亥歲／正月吉旦／婦屋仁兵衛梓行

▽和漢唱酬集 刊 大本 五卷合四冊 柳川古文書館

目錄に「池菴(佐々木玄龍)」が追加

刊記 洛下書林／堀川／上村藤右衛門梓行

◎木下順菴稿 写 半紙本 一冊 都立中央図書館

本文 墨付29丁半

八月二十六日・九月四日 於江戸本誓寺

※内容は全て通信使との筆語唱和

正徳元(二七二)年

◎朝鮮人来聘関係書類三 写 大本 一冊 京都大学文学部

(1) 内題「朝鮮国洪滄浪寄書／日本国野桃原返翰」

本文 墨付3丁半

(2) 内題「韓客唱酬詩稿」

本文 墨付4丁 北尾芳安(蘭洲)

(3) 内題「大聖山居韓客贈答」

本文 墨付7丁 彦岑

(4) 内題「萍会前集」

本文 墨付29丁 三宅石屏(以寧)

(5) 内題なし

本文 墨付7丁半 稲若水

(6) 内題なし

本文 墨付3丁半 篤所・別宗長老・願神堂

(7) 内題なし

本文 墨付6丁 向井橘洲(誠安)

奥書「朝鮮人来聘関係書類三冊／右東京市外落合村公爵近衛文麿氏／所蔵記録

／大正七年一月謄写編纂ス／右原本ハ断片的ノ書類ナリシヲ当研究室ニ

於テ編纂シテ／新二右ノ如ク題セシモノナリ」

※第一・第二冊目には唱和・筆談を収めていない。

◆朝鮮人行列記 刊 横本 一冊 国会図書館

内題「朝鮮人行列」

口絵 3丁

本文 31丁

刊記 于時正徳元辛卯年／八月中旬／書林 板行

(了)